

# 深い泉

幸せな贈り物

聖書が語っている

## 聖誕<sup>クリスマス</sup>のまことの意味

### クリスマスの流れ、どう思いますか

最近になってクリスマスを迎えるときに、よく聞くことばがあります。「メリークリスマス！」(Merry Christmas)だけでなく、「ハッピーホリデー」(Happy Holiday)という表現もたくさん見るようになりました。今はクリスマスを越えて「スマートマス」(Smartmas)ということばまで登場して、スマートフォンやタブレットコンピュータ(PC)で経済的で意味あるクリスマスを準備できるという移動通信会社の広告が熱いです。一方、アメリカの企業は新年のあいさつカードに「メリークリスマス」と書くべきか「ハッピーホリデー」と書くべきか悩んでいると明らかにしました。アメリカ大衆宗教研究所(PRRI)と宗教ニュース通信(RNS)が共同調査したことを見ると「宗教的多様性を尊重する趣旨で、企業が新年のあいさつカードのことばに‘メリークリスマス’の代わりに‘ハッピーホリデー’と書かなければならないという答えが44%、そうではないという答えが49%で同じくらいだった」と明らかにしました。いわゆる「クリスマス戦争」と呼ばれるこのあいさつのことば論争は、最近、数年間で高まっています。ロバート・パットナム、ハーバード大学の教授は、ほとんど半数に近いアメリカ人が、企業カードのことばに「ハッピーホリデー」を選んだのが恐ろしいと評価しました。彼は、以前ならばこういう質問を考えることさえできなかったはずだと「これは今までの50年間、宗教的(超越を強調する)敏感性の増加という大きい変化を見せている」と説明しました。また、このような結果はアメリカで異宗教間の結婚が増えた現象を反映しているようだと言いました。このような葛藤に対して、新年のあいさつカード製作者ミクスドゥブルレシンのピル・オークランド社長は「プロテスタントが多数であるところでは‘メリークリスマス’を、多文化的指向が強い地域では‘ハッピーホリデー’を使えば良い」という返事を出しました。クリスマスと言いますが、すでに主人公の座は「サンタクロース」や「ルドルフ、となかい」に奪われてしまい「人間イエス」を強調するミュージカル<ジーザス・クライスト・スーパースター>、小説<ダヴィンチコード>文化に変質して、聖書が語っている真のクリスマスの意味とはますます距離が遠のいていきつつあります。



## 聖書が語っているクリスマスの意味

「クリスマス」ということばは「油を注がれた者」という意味の「キリスト」(Christ)と「日、記念日」という意味の「マス」(Mass)が合わさったことばで、人間を救うためにイエス・キリストがこの世にお生まれになった日を祝って礼拝するという意味です。ルカの福音書2章11節に「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」とされていますが、まさに人間を救うキリストが「イエス」です。マタイの福音書1章21節を見れば「マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」とされています。したがって、クリスマスは人間に向かった神様の最も大きい喜びの知らせが伝えられた日で、人間が解決できない原罪、のろいと運命、サタンの権威を解決する解答が与えられた日です。

### なぜ人間にはクリスマスが必要なのでしょうか

クリスマスは人間の時間(コノス、Chronos)に神様の時間(カイロス、Kairos)が介入した事件だと説明されたりもします。なぜ神様が人間の生活に介入しなければならなかったのでしょうか。

だれがなんと言っても、魚は水の中に生きていてこそいのちがあって、鳥は空を飛んでこそ自由になり、木は地に根をおろしてこそ実を結ぶように、私たちの人生もまた神様とともにいる創造の原理に従って生きていく時だけ幸せなのが人間の本来の姿です。霊的存在として造られた人間が、サタンという霊的存在の誘惑に負けて神様を離れた瞬間、根こそぎ抜かれた木のように苦しくて実もなく枯れていくしかない六つの人生ののろいを避けられなくなりました。

人間が解決できない根本問題、成功のあとにやってくるむなしさと、繰り返す非理性的な問題、生きていくほど訪ねてくる不安と恐れ、最も理性的で科学的な人間が動物にお辞儀をして、木や獣、石をおがみ、お守りに頼って、車にステッカーやおふだを付けて通って安全を期待する愚かさ、生活の便利さ

とは関係なくやってくるうつ病と精神問題、日に日に増えていく性暴行と凶悪犯罪のくり返し、増えていく病氣と崩れていく肉体の健康と人間関係、未来に対する不安と、結局、行かなければならない死と地獄という永遠な苦しみと刑罰の恐怖、ここにまた繰り返すしかはない不幸の相続…。はたして、そのようなことはないかと話すことも、私のことではないと拒否することができるのでしょうか。

このように、人間がことばにすることもできない苦しみの中にさまよっているとき、神様は人間に向かって最高の愛と配慮を準備してくださいました。

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。」(ヨハネの手紙第一4:9)「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネの福音書3:16)「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ人への手紙5:8)

神様に会う道であるまことの預言者として、罪の問題を解決されたまことの祭司として、サタンの権威を打ち破ったまことの王として、この世にイエス・キリストを送ってくださいました。イエス・キリストが十字架で死なれたことと復活の事件は人間が解決できない問題を一気に解決してしまった事件でした。それで、だれでもイエス・キリストを受け入れる者、すなわちその名前を信じる者には運命ののろいから永遠に解放されて、神様の子どもになる権威をくださると約束してくださいました。「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」(エペソ人への手紙2:8)これがまさに私たちにクリスマスをくださった理由です。

「御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。

これが、あなたがたのためのしるしです。」すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現われて、神を賛美して言った。「いと高き所に、栄光が、神にあるように。

地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」ルカの福音書2:10~14

## 人生のまことの感謝のはじまり クリスマス

ある牧師が説教の準備をみな終えて黙想をしていたところ、週報を印刷する印刷所から電話がきました。週報に説教のタイトルが抜けているということでした。それで牧師が「主は私の羊飼い」だと知らせました。印刷所職員が思うのに、いつもは、これよりはるかに長いタイトルだったのに、タイトルがとても短かったので、また確認するために電話したところ、牧師が「主は私の羊飼い、それで良いのです」と答えたのでした。ところで、聖日の朝になって印刷されてきた週報を見た牧師がびっくりしました。説教のタイトルが「主は私の羊飼い、それで良いのです」となっていたのでした。牧師が瞬間うろたえたのですが、このタイトルを繰り返して言うところ、むしろもっと大きな恵みが臨むのを感じました。「わたしがあなたの羊飼いになればそれで充分ではないか」という神様の御声が聞こえたのです。イエス・キリストを生活の主人として受け入れた人には「イエスがキリスト、人生すべての問題解決者」であるという、この事実一つですべてのことが終わります。イエス・キリストが生活の主人になった人は、このような事実一つだけでも生活に感謝があふれるようになります。そして、このような感謝の告白と祈りは、生活を根こそぎ変えてしまいます。

アメリカの有名な M.D.アンダーソン、がんセンター終身教授であるキム・ウィシン博士が 30 年間、がん患者を治療してくださった結論がこの前の新聞紙上に報道されていました。この方が 30 年間、毎日、がん患者をずっと見てみたら、「あっ、あの人はよくなる。あの人は可能性がない」このように診断できると言いました。アメリカ人より在米の同胞、その中でも韓国からきた患者がとりわけ治療がうまくできないのですが、その理由が感謝が消えて、長い治療に対する副作用だけずっと覚えているためだということです。これとは反対に、アメリカ人の患者の中には患者のようでない患者が多いということです。坑がん治療を受ける渦中にも、のんきにゴルフをして楽器を演奏するかと思えば、天国に先に行くから後で会いましょうという冗談を言ったりもするというのです。ところで、こういう患者が治療もうまくいって良くなるということです。私たちのからだでがん細胞を食いつくす免疫細胞である NK 細胞の数値は、いつも笑って楽しく生きる人、感謝する人から高く出てきます。

どのようにすれば、環境と条件を越えるまことの感謝の人生を生きることができるのでしょうか。世界的な物理学者アルベルト・アインシュタインが人生を生きるのに 2 つのたとえをあげました。最初は何でもないように生きる方法があって、二つ目はすべてのことが奇跡だと言いながら生きる方法があると言いました。私の人生の価値、意味を無視して生きる人は、本当に無気力でみじめな生活を送るようになります。しかし、同じ人生であっても、これらすべてのものが神様がくださった奇跡だと信じて感謝しながら生きていくなれば、そのような人の人生は、生命力と価値を発見するようになります。どんな生活を送りたいのでしょうか。その開始がまさにクリスマスをくださった神様の理由です。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

(ヨハネの福音書 3:16)

### 神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエスを私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入れてください。私の中の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

### 神様の子ども 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

# 光に従えば

自動車文化が世界化されて、世界のどこの国でも交通信号は共通して赤、青、黄で指示表示をする。赤は停止、青は進行、黄は注意を含んだ待つことだ。これは単純な色だが、交通秩序を守るようにさせる生活の光だ。

このごろ、都市ではきらびやかな街灯やネオンの光のために、夜空の星の光を見られなくなった。地の光が明るくて、空の美しい明かりを見られないのは、子どもたちの夢を奪うことでもあるが、空をながめることができないほど忙しい現代人に、それは何の問題にもならないようだ。今のように照明が発展する前に、空の星をながめた人々が、それを詳しくながめながら観察して、それで一定の法則があることを発見した。その意味をさらに深く探した人々に空中の権威をつかんだ者が知識を付け加えたので、日月星辰、すなわち照らす太陽と照らされる月と輝く星を見て、個人の運命と国家の未来を占うことをするようになった。宇宙の秩序の中で祭りを見つけ出して農作業に活用したり、生活の知恵を得ることは貴重な価値なのに、光の用途を誤用して人間に苦痛を与えることに同調してはいけない。神様を離れた人間はだれでも普遍的に恐れを持っているのだが、それを巧妙に利用して運命を利用して、金儲けに汲々とした人々や、特別なことではないけれど、神秘的な知識を土台に宗教に縛られるようにすることも、また同じだ。自然万物の中に神様が光をくださったのは、自然の色を分かるようにすることで、成長と生育に必要な力を与えるためだ。これを支配しなければならぬ人間が、かえって人間のための自然現象のわなに捕えられるように自らしてはいけない。それにもかかわらず、今日もだまされている人々は、まことの光を見られなかったので、偽りの光の惑わしの中にいるのだ。人間が人間らしさを味わうのは創造の秩序に従うことで、人間に救いの光をくださ



ったキリストの光に従うことだ。宗教にはまことの光がないので、光の姿をまねをする多様な光の形をそろえる。目に見えない無形の存在である光を形に作り出す実力がすごいのだが、その虚構の光を本物のように従う人間の宗教性こそ、本当に大きな愚かさだ。

人間が味わうまことの光は、この地に来られたイエスがご自身のからだを通して完成されたキリストの光だ。この光はヨハネがあかしたように、まことの光だ。しかし、本当の光を見る目がないので、だれもその光を光だと認めなかった。しかし、その光はまことの光だった。その光を受けた人だけが人生の解答を得て、今日の平安と未来の答えを味わう。だれがその光を味わえるのだろうか。これは、交通秩序をだれがよく守れるのかというような質問だ。赤の光ならば止まれば良くて、青の光ならば進めば良いように、光であるイエスがキリストを心で信じて心に受け入れれば、まさに光に従うことになる。これでないならば、だます光にはきらびやかさはあるかも知れないが、人生のまことの解答と平安はのがすようになる。

太陽が回って日が変わるが、まことの光を所有した人は、どんな光の場合にも自由で感謝するが、惑わす光の下にいる人は限りない自己憐憫の中で苦しみの夜を過ごす。ゆえに、ただ完全な一つの光であるキリストの光に従おうではないか。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)

\*相談したい方はこちらまでどうぞ